

美術散歩

カラヴァッジョと若冲 委員 小高 峯夫

数年前、東京で若冲展とカラヴァッジョ展が同時期に開催された。私はカラヴァッジョ展は拝見出来たが、若冲展は人気沸騰で連日長い行列ができるありさまで入館をあきらめた。その後、地方をめぐるミニアチュールとしての刺繍画による若冲展を地元で見ることができた。

興味深いのは生まれも育ちも生き方も全く違う二人が、描く対象の捉え方が似ていることだ。激しい色面対比で際立てる手法や描写力の凄さは共通している。そして全く違うのはカラヴァッジョは激しく短かい人生を、若冲は穏やかで長い人生を送ったことだ。

カラヴァッジョは一五七三年イタリヤ・ミラノ付近の生まれで若くして世に受け入れられ教会などから注文が殺到し、描けば売れる人気画家になった。しかしこの男素行が悪い上喧嘩早く刃傷沙汰が絶えず、口論の果て相手を刺し殺し、ローマ警察の指名手配となった。ナポリ方面へ潜伏し、逃亡資金を稼ぐため絵を描いては売っていた。

題材は主にキリストの宗教画

や神話であるが当人は少しも信仰心がなく、闇夜の中の人物にスポットライトを当てたような光と陰で迫真的に描くことに専念したものである。

作画技量はタダモノではなく人物の組合わせ、色づかい、表情などの表現は超一流である。行くところ大人気となり画風をまねる、いわゆるカラヴァッジョスキが多数現れた。

この影響はヨーロッパ全土に及び、後にベラスケス、レンブラント、フェルメールにまで間接的に影響を与えたと言われ、絵画史上いわゆるバロックの始祖となった。しかし素行の悪さは生涯治らず逃亡生活の果て、のたれ死同然、三八歳の生涯を閉じた。



聖母の被昇天

一方若冲は一七一六年京都生まれ、何不自由ない裕福な青物問屋に生まれ家業を継ぐも若

くして家業を弟に譲り隠居、禅修行しながら画業に専念した。禁欲生活を生涯通し酒も女も興味なく画業一筋に徹した。絵は描いても売らず信仰先の寺に寄贈した。

題材は自然界の動植物の生態を極彩色や自然の色彩で表現したものである。画風はきめ細かく丁寧だが正確に描く意図ではなく、自然界の生態を素直に表現した結果だという。しかし不自然な表現もある。例えば波がしらが絡み合っていたり、蛸の足に子蛸が絡み合っているなどは実際にはあり得ない事だという。このようなことは「物すべてに生命あり」とするアニミズムの現れだという。

平穩に過ごしてきた若冲であったが晩年火災に巻き込まれ、どん底生活を余儀なくされた。しかし信仰心厚く版画や水墨画などを精力的に制作し八五歳の充実した生涯を全うした。

(両展覧会より引用)



動植綵絵 群鶏図

新日本美術協会
ホームページ



第46回新日美展
応募要項

会員異動

令和4年1月～令和4年4月 事務局

名誉会員 蕪木節夫	前洋画委員	3.31 付	退会続き 佐藤典子	洋画会員	3.31 付
永年会員 小林志津子	前洋画会員	2.26 付	倉持政江	日本画会員	3.31 付
退会 杉本 修	洋画準会員	2. 2 付	入会 池田美子	洋画会友	3.24 付
矢野克子	洋画会員	2.28 付	池田晴子	洋画会友	4. 5 付
山田はるみ	洋画会員	3. 7 付	逝去 吉浜忠夫	永年会員	3.28 永眠
津國美津子	永年会員	3.31 付	岩田康彦	名誉会	4.19 永眠
					以上